

平成29年度【第1回】島根県県民いきいき活動促進委員会 【議事概要】

日時：平成29年7月6日（木）

13:10～14:40

場所：島根県松江合同庁舎601会議室

出席状況

○委員（17名、1名欠席）

毎熊委員長、小倉副委員長、金野委員、石原委員、大森委員、岸委員、上代委員、高木委員、中野委員、中岡委員、原田委員、本藤委員、松浦委員、松崎委員、森山委員、若菜委員、和田委員

○事務局（6名）

犬丸部長、松岡参事、太田室長、佐草企画幹、山根企画員、安達企画員、小村主任

1. 開会

2. あいさつ 犬丸環境生活部長

3. 委員改選等について

（1）各委員から自己紹介

（2）委員長・副委員長の選出

委員から、毎熊委員を委員長に推す意見が出され、全員了承により選出された。

毎熊委員長が副委員長に小倉委員、金野委員を指名し、兩名の副委員長就任が決定した。

（3）部会・審査委員会について

事務局から、委員会の下に置く各審査委員会の委員について、資料に基づき報告があった。

3. 報告事項

(1)～(5)について、事務局から資料に基づき説明があった。

(1)島根県民いきいき活動促進基本方針について

(2)平成29年度の事業概要について

(3)しまね社会貢献基金事業について

(4)県内のNPO法人の認証・認定の状況について

(5)県民いきいき活動奨励賞について

【質疑応答、主なご意見】

委員 成果指標に「力があると自ら認識する」とあるが、客観的な評価指標が必要なのではないか。

また、社会貢献活動を行っている団体は増加している。しかし、NPO法人数はそんなに増えていない。特に、認定NPOが増えていない。

委員 NPO法人が自分たちの事業を自己評価することは難しい。社会的インパクト評価として、国も力をいれているところ。

また、一般社団法人でも公益性の高い活動を行っている団体もあり、法人格の選択の相談があった場合には、協力者・支援者とともに活動する場合はNPO法人を勧めている状況である。

事務局 今年1月以降、県内の2つのNPO法人から、認定に向かいたいとの相談があった。

委員 力があるNPO法人とは、事業だけでなく、運営や人材育成など全体のバランスが高い法人であると思う。

委員 力があるNPO法人の活動は事業を広げ、多様化していく。NPO法人の数だけを指標にするのは、形式的である。

委員 社会貢献活動をしている一般社団法人が増加していると思うが、数を調べることはできるか。

委員 一般社団法人は、継続して事業報告する義務がないので、無理であろう。

委員 一般社団法人か、NPO法人かを選ぶ場合、メリット、デメリットが一覧になったものがない。

委員 一般社団法人か、NPO法人だけでなく、任意団体も含めた一覧があればよい。

(＜後日調査＞→ ひょうご中間支援団体ネットワーク・兵庫県・神戸市が作成した手引きの一覧表が利活用できる)

委員 「いきいき活動」ということばがわかりにくいことが普及しない原因なのではないか。

委員長 ことば自体は普及しなくても、結果的に活動が盛んになればよいと思っている。

委員 応募団体の割合や、協働事業の達成度、自己評価の成果指標の数値が平成24年度と比較して平成27年度が下がっているが、原因は何か。

事務局 アンケート調査による回答である。原因の分析はできていない。

委員 平成27年はNPOの解散件数が多いが要因は何か。

事務局 最も多いのは、高齢化などにより人材確保、育成ができなくなり、活動が停滞したとのことである。

5. 閉会